

ショパンコンクールの入賞者が感動と熱狂をそのままに登場！

19th Chopin Piano Competition

GALA CONCERT

with Warsaw Philharmonic Orchestra

第19回ショパン国際ピアノ・コンクール

入賞者ガラコンサート

with

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団

指揮：アンドレイ・ボレイコ

ソリスト：第19回ショパン国際ピアノ・コンクール入賞者(11月頃に決定予定)

予定曲目：ショパン ピアノ協奏曲 ほか

2026

1/23

FRI
開演 19:00
開場 18:15

福岡シンフォニーホール

アクロス福岡 福岡市中央区天神1丁目1-1

もっどー一緒に!
アクロス福岡
ACROSS Fukuoka

チケット (全席指定・税込)

S席17,000円、A席16,000円、B席15,000円、C席14,000円 (U25席7,000円)

※U25席の取り扱いにはアクロス福岡チケットセンターのみ。※未就学児入場不可。(無料託児サービス有り/要・事前予約)

※車椅子席 (13,600円) はアクロス福岡チケットセンターにお問い合わせください。

一般発売 | 2025年 7月 11日 [金] アクロスWEB先行販売 | 7月6日 [日] ~

○アクロス福岡チケットセンター [10:00~18:00] | 092-725-9112 ○アクロスWEBチケット | <https://www.acrosticket.jp>

○チケットぴあ | (Pコード297-283) <https://t.pia.jp> ○ローソンチケット | (Lコード82491) <https://l-tike.com/>

お問い合わせ | アクロス福岡チケットセンター 092-725-9112 [10:00~18:00]

主催 | テレQ・(公財) アクロス福岡 後援 | 福岡市・(公財) 福岡市文化芸術振興財団

©photo by GOLIK/ The Fryderyk Chopin Institute ©DG Art Projects

指揮：アンドレイ・ボレイコ



©Michał Zagórny



©Grzegorz Mart

●本公演のチケット料金は消費税込みの金額です。●U25（アンダー25）割引は、公演当日に25歳以下の方を対象として表記料金にて販売するものです。必ず公演当日に生年月日を証明できるものをお持ちください。●身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者1名さまについては、障がい者割引の適用が可能です。お申し込みはアクロス福岡チケットセンターに限りです。また購入に際しましては、障害者手帳が必要です。●車椅子でお越しの方は、優先割引席（4席）がございます。詳しくはアクロス福岡チケットセンターまでお問い合わせください。●小学校入学前のお子さまの入場はできません。託児サービス（ご利用無料）を希望される方は、下記をご覧ください。●バルコニー席は、舞台が見えづらい場合がございます。ご了承ください。●諸事情により記載内容が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

託児サービスのご案内（ご利用無料）

託児サービス（生後3ヶ月から小学校入学前のお子様）をご希望の方は、チケットご購入の後、下記にお申し込みください。受付は公演前日（土・日・祝日は受付をいたしません）までですが、定員になり次第締め切らせていただくことがあります。

お問い合わせは

☎0120-8000-29 TEL092-263-8040

（株）テクノ・コーポレーション（月～金曜日9:00～18:00）

アクロス福岡チケットセンター（10:00～18:00）

〒810-0001 福岡市中央区天神1丁目1-1 西館2F

TEL / FAX 092-725-9112 / 092-725-9102

🔍 **アクロス福岡** <https://www.acros.or.jp>

第19回ショパン国際ピアノ・コンクール 入賞者ガラコンサート

with ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団

数あるピアノ・コンクールの中でも、最も権威と伝統のあるコンクールのひとつ「ショパン国際ピアノ・コンクール」。5年に1度、ショパンの故郷であるポーランド・ワルシャワで、ショパンの命日である10月に本大会が開催されています。

今回は、新型コロナウイルスの影響で1年延期され2021年での開催となったところ、

日本人ピアニスト2名が入賞し、国内外で大きな話題となりました。

2025年10月に本大会を迎える「第19回ショパン国際ピアノ・コンクール」には、

日本人13名を含む85名の若きピアニストが挑みます。（2025年5月現在）

今回は、その入賞者たちが現地の熱狂そのままに華やかな演奏をお届けします。

共演するオーケストラは、

コンクールのファイナルでも演奏する名門・ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団です。

夢のガラ公演、若きスターたちによる競演にご期待ください！

アンドレイ・ボレイコ / 指揮

アンドレイ・ボレイコは、作曲家の意図を的確に捉え、圧倒的な存在感で観客を魅了する指揮者。知られざる名作を積極的に取り上げ、国際的に高く評価されている。ワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団の音楽・芸術監督を5シーズンにわたり務め、ペンデレツキ音楽祭、ベートーヴェン・イースター音楽祭、「ショパンと彼のヨーロッパ」国際音楽祭への定期的な出演をはじめ、ヨーロッパ、アジア、アメリカ各地でのツアーも精力的に行ってきた。彼が率いた数多くの録音プロジェクトには、ギヤ・カンチェリの《リベラ・メ》、ペンデレツキの《交響曲第2番「クリスマス」》、クレツキの《シンフォニエッタ ホ短調》、シマノフスキの《神話と仮面》など、知られざる魅力を持つ作品が多数含まれている。現在はロンドン・フィルハーモニー管弦楽団の常連客演指揮者としても知られ、2024/25シーズンにはショスタコーヴィチの《交響曲第13番「バビ・ヤール」》を演奏予定。同シーズンには、ウィーン交響楽団（ソリスト：ユリア・フィッシャー）との共演、ウィーン・コンツェルトハウスおよびバート・ヴェリス・ホーフェン国際音楽祭でのコンサートが含まれる。また、アントワープ交響楽団との特別プログラムでは、ギヤ・カンチェリ生誕90周年を記念して《リベラ・メ（準レクイエム）》とプロコフィエフの《交響曲第3番》を取り上げる。このほか、2024/25シーズンにはオーフス交響楽団、ハンブルク国立フィルハーモニー管弦楽団、ポーランド放送交響楽団、シュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団、バンクーバー交響楽団に客演予定。バリトンのトーマス・ハンブソンとの共演では、マラーの歌曲やツェムリンスキーの《人魚姫》を演奏し、2025年6月には新日本フィルハーモニー交響楽団とショスタコーヴィチ《交響曲第11番》を披露する。これまでに、ウィーン放送交響楽団、RTVE交響楽団（マドリッド）、プラハ交響楽団をはじめ、ロイヤル・スコットランド・ナショナル管弦楽団、ベルリン放送交響楽団、ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団、モントリオール交響楽団、ガリシア交響楽団、RAI国立交響楽団、パレンシア管弦楽団など、ヨーロッパおよび北米の主要オーケストラに度々招かれている。2022年から2024年にかけてはミラノ交響楽団のレジデント・コンダクターを務め、定期演奏会のほか、スカラ座のシーズン開幕ガラ・コンサートやマラー音楽祭での《交響曲第2番「復活」》など、話題性の高い公演を多数指揮した。これまでに音楽監督を務めたオーケストラには、アルティス・ナポリ、イエナ・フィルハーモニー管弦楽団、ハンブルガー交響楽団、ベルナー交響楽団、デュッセルドルフ交響楽団、ウィニベグ交響楽団、ベルギー国立管弦楽団などがある。

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団は、最初の公演を1901年11月5日、新たに建設されたフィルハーモニーホールに柿落としして行った。指揮は楽団の共同創設者にして初代音楽監督兼常任指揮者のエミール・ムリナルスキ、ピアノ独奏はイグナツィ・ヤン・パデレフスキであった。第一次世界大戦前から第二次世界大戦までの間に、ワルシャワ・フィルはすでにポーランド音楽界の中心的存在、そしてヨーロッパの音楽界においても主要な団体のひとつとなっていた。第二次世界大戦直後、楽団の公演は劇場やスポーツ施設にて行われていたが、1955年2月21日、再建された本拠地（ドイツ軍の空襲によって破壊されたホールのかわりに）フィルハーモニー・ホールが開場し、オーケストラは国立管弦楽団の称号を与えられた。新しい監督ヴィトルド・ロヴィツキのもと、ポーランドを代表するオーケストラとしての地位を取り戻した。1955年から58年にはポーダン・ヴォディチコが芸術監督に就任、その後再びロヴィツキが就任し、77年からカジミエシュ・コルト、2002年からアントニ・ヴィットが総監督兼芸術監督に就任した。13年からヤツェク・カスブシク、19年からアンドレイ・ボレイコが就任。24年からクシシュトフ・フルバンスキが芸術監督を務めている。今日、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団は、世界的人気と高い評価を確立、5つの大陸で150以上ものコンサート・ツアーを行い、世界の主要なコンサート・ホールで演奏している。ショパン国際ピアノ・コンクールや「ワルシャワの秋」現代音楽祭でも定期的に演奏を続けている。ポーランド放送や国営テレビ（TVP）、ポーランド国内外のレコード・レーベル及び映画会社との録音も行っている。ペンデレツキやシマノフスキの壮大なスケールの声楽曲や器楽曲で2013年グラミー賞（6つのノミネーションを含む）を受賞したほか、ディアパソンドール、ICMA（国際クラシック音楽賞）、グラモフォン賞、レコード芸術アカデミー賞、クラシカル・インターネット・アワード、カンヌ・クラシカル・アワード、ポーランド・フォノグラフィック・アカデミーのフレデリック・アワードなど数多くの荣誉ある録音関係の賞を受賞している。